

中学校武道

授業の充実に向けて

199

「今」の時代の武道授業を追い求めて

28

（身体障がい者〈児〉における空手道授業の取り組み）

富山県立しらとり支援学校 教諭 太田熊野

北を日本海、東西南の三方を山に囲まれ、県央には呉羽丘陵を挟んで東西に歴史的に特徴がある、自然が豊かで農業が盛んな富山県で、特別支援学校（養護学校）の教諭として生徒と共に学習に取り組んでいます。

これまでに勤務した学校では、年間指導計画の武道の授業時間に空手道を取り入れて教えてきました。多岐にわたる障がい者（児）へ、私自身がこれまでに行ってきた実践を紹介したいと思います。

1 障がい者（児）空手道指導

私が富山県で障がい者（児）の空手道指導を始めたのは、全日本空手道連盟がマスターズ大会と抱き合わせで「第1回全日本障がい者空手道競技会」を富山県で開催したことに端を発します。2003年より指導を行ってきました。障がいのある人たちへの指導は初めてで、何からすればよいのか手探り状態で始めました。毎年行われる全日本障がい者空手道競技会

に選手を出場させるために、個性を持った障がいのある人への指導法を考え、上手^{うま}くないかなことや個人に合わないことを発見しながら、共に「できる」「できた」を繰り返しました。また、一つのことに時間をかけて指導することの難しさに挑戦し、個人に応じた空手道の動作づくりを行ってきました。

2 特別支援学校での中学校武道（空手道）

私が県立高校から2000年に



肢体不自由者（児）の指導・先生への伝達指導の様子

転勤した学校は、肢体不自由児学校（富山総合支援学校、旧富山養護学校）でした。障がいがあるといても多岐（車イスの生徒と歩行可能な生徒など）にわたる障がい者（児）の様子に、体育授業をどのように指導し、進めていくのか戸惑うことばかりでした。所属する学校では小学部、中学部、高等部があり、初めて担当した学部は高等部でした。肢体不自由者（児）の体育の授業の進め方を手

探り状態から始め、月日が経つにつれ指導の仕方を少しずつ理解できるようになり、授業を進めることができるようになりました。それから4年後に中学部へ移りました。

2012年に空手道が、中学校武道必修化として導入され、それに伴い空手道の指導を授業で始めるようになりました。私が障がい者（児）空手道指導を始めた2003年から9年後のことでした。

3

特別支援学校の空手道 授業での指導の工夫

はじめは、あいさつから指導を行いました。「礼」は武道では大切なことであり、相手を思いやる心や、人格尊重の大切なことを学ぶ一つの手立てになると思いました。続いて手の握り方、突きや受けの動作を指導することから始まり、立位者の基本の立ち方、前屈立ちができるように工夫しました。

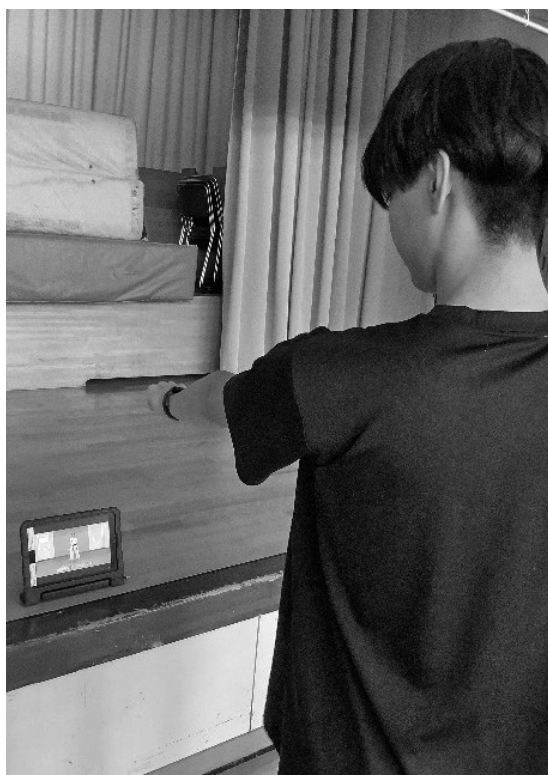
指導を行う上で、障がいの特性や、個人にできる動きの制限にあった動作、個々に沿った技を学ぶ時間の組み方に工夫をしなければならず、思うような授業展開をすることができない時もありました。

4

肢体不自由者（児） の指導

肢体不自由者（児）の指導では、自分自身の体幹や姿勢保持をしようとする部位を使って突きや受けができるように工夫しました。また、突く動作や受ける動作は呼吸を使うことにより緩急（緩やかな動きと素早い動き）などができるように教えました。空手道の動作に対して合理的な技の展開ができるように、車輪操作後の腕の動作、技としての腕の使い方、顔を向ける（着眼）方向など指導内容を工夫し、個人に応じた技の指導をする時間が続きました。

車イス利用者や筋ジストロフィーの生徒に合わせるように授業時間に配慮しながら実施しました。また、筋ジストロフィーの生徒では、反復回数制限に気を使いながら指導しました。正拳突きをする時の位置を確認するためのに、2リットルのペットボトルを吊るし突きを当てるように工夫しました。また、拳をつくる時には親指を握りこませないように、新聞紙を丸めて握らせ指導しました。座位（車イス含む）での指導では姿勢保持のためにどのようなすれば良いのかPT（Physical Therapist、理学療法士）に教え



聴覚障がい者（児）の指導・iPad使用での確認



肢体不自由者（児）の指導・座面の工夫



肢体不自由者（児）の指導・フットレストの工夫

ていただきながら、個人に合った指導を導入しました。例えば、車イス利用者の場合には、踵で踏ん張ることで脊椎を支えることができるようになることなどをPTから教えていただきながら実施しました。

その後も人事異動に伴い聴覚障がい者（児）と軽度知的障がい者（児）のための学校（富山県立高岡聴覚総合支援学校）、続いて視覚障がい者（児）と病弱生徒のための学校（富山県立富山視覚総合支援学校）で、多岐にわたる障がいの生徒の指導をしました。

5 聴覚障がい者（児）の指導

聴覚障害の生徒には、iPadの動画で1挙動から4挙動を一つの区分として順番を付け、活動する前に共通理解として白板に順番を記し、視覚的に動作番号で区分わけなどの見直しがよくようにしました。

また、鏡（姿見）を利用して背

後に生徒を立てさせて生徒の様子を見ながら運足（足の運び）を指導したり、iPadを利用して動作の獲得ができているのか、動画を見返して何回も繰り返し確認できるように指導しました。さらに正確な前屈立ちができるようにスロー再生で確認したり、自分たちの立ち方と動画配信の画像と見比べながら立ち方を学習したりして授業展開をしました。

6 視覚障がい者（児）の指導

視覚障がい者（児）では、身体接触に気を付けた指導を心掛けました。コロナ禍の時期もあり、ソーシャルディスタンスを保ちながら、突きや受けの動作を反復して行いました。視覚障がい者（児）の場合は、視覚での確認ができないハンディキャップがあり、どのようにすると突きや受けの動作ができるのか悩みました。

視覚支援学校では、複数の先生による1対1の対応が可能なた



視覚障がい者（児）の指導・先生への伝達指導の様子

め、授業支援者となる先生方へ空手道の技（突き、受け）を伝え、教材補助具（ラップの芯）を使つて生徒へ指導ができるようにしました。ラップの芯を使った支援により、生徒が突きや受けを獲得できるようなりました。また、生徒は五感が敏感なこともあり、その利を生かして聴覚や触覚を利用しました。

運足では、タフロープや新聞紙を教材として使い（足底での感触と音を使う）、歩幅と運足を確認しながら指導しました。音感が良く、体でリズムを上手に取ることがができる生徒へは、リズムよく号令をかけることで突きや受けの動作を獲得できるよう心掛けました。

指導の難しや

7

現在私が所属する知的障がい者（児）学校（しらとり支援学校）

では、12月に中学部を中心に指導を行う予定です。教材は生徒に合

わせて、考案しようと考えています。

障がい者（児）生徒を指導するうえで、私たちがそれまでに習ってきた指導方法では簡単にできないことを思い知らされました。突きや受けの動作を反復する際にも、障がい特性に対応しなければなりませんでした。4時間の授業時間を取っていましたが実際は6時間かかってしまい、通常行う空手道の動作ができるまでに時間がかかる状況に気がきました。車イスの生徒へは、座面の補助やフットレストの工夫、背もたれの工夫が必要になってきます。また、筋ジストロフィーの生徒には反復回数制限をする必要があり、できなくても途中でやめさせなければなりませんでした。生徒が、「できた」や「できるようになった」と言えるためには、時間をかけて指導をしていかなければなりませんでした。そして、障がい者は個性だと考えいろいろな技に対する動作を考え、その人に合った技を身に付けていくことができるように指導をしていかなければなりません

8 評価の仕方・まとめ

んでした。身を守るための受け方
 や、動き方、合理的に流れるよう
 に技へつなげる動き方が必要にな
 ると想定して指導しました。
 また、個に応じた目標と目的を
 明確にして授業展開することが必
 要不可欠だと感じました。ある生
 徒は、突きの動作と受けの動作が
 連続してできるとか、運足をして
 受けや突きができるとか、何が
 できればその個人にとって「でき
 るようになった」「できた」となる
 のかを見ていく必要がありました。
 た。

授業中の指導内容については、生徒が動作や技を理解できているのかを把握しながら指導すること、生徒のできる度合いと活動内容の理解が明確になります。

突きや受けが理解できて、動作の理解ができるようになることで、「できるようになった」「できた」と感じる充実した授業になった。

全国指導者研修会の
最新情報はこちらを
ご覧ください



り、生徒たちの喜びの顔や「先生見てください」の言葉に、空手道を教えてよかったと思いました。

できる喜びを味わわせることができました。また、伝えることの難しさに触れる一方で、生徒たちの成長を目にできた満足感に喜びを感じました。

今後、いろいろな指導者が日々新しい取り組みに着手し、いろいろな場面で試行錯誤、工夫をしながら指導されていくと思います。

これからの障がい者（児）学校武道（空手道）授業に取り組むことで、より一層楽しい授業展開ができると思います。先生方はぜひ、「全国空手道指導者研修会」へ参加していただき、空手道の授業展開を工夫、進展させてほしいと思います。

◎日本武道館の単行本



剣道の文化誌

明治大学教授 長尾 進 著

四六判・上製・480頁・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法

埼玉大学名誉教授

四六判・上製・516頁・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



柔道 その歴史と技法

筑波大学名誉教授

四六判・上製・330頁・定価2,640円

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・
嘉手苺徹 著

山正辰・和田光二

四六判・上製・568頁・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長胤の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



マンガ・日本武道風土記 (全2巻) 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著

漫画家・別府大学客員教授
田代しづこ著

B5判・並製・248頁・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみたいは。



死ぬまで弓道

弓道教士七段 小牧佳世 著

四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早急」など弓道の誰にもが得る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



学校武道の歴史を辿る

筑波大学名誉教授
萩原 由起雄

四六判・上製・354頁・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後には武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

